

「保健医療科学」
第69巻 第5号 予告

特集：気候変動による日常生活や健康への影響を考える（仮題）

公衆衛生分野における気候変動の影響と適応策（仮題）	橋爪真弘
気候変動による健康リスクへの影響（仮題）	本田靖
地球温暖化による感染症への影響（仮題）	小野塚大介
水資源、水道インフラへの影響（仮題）	秋葉道宏、小坂浩司
住居と室内環境への影響（仮題）	金勲
埼玉県における地域気候変動適応計画の取り組み事例（仮題）	原政之

編 集 後 記

21世紀以降に発行された「保健医療科学」のうち、歯科口腔保健に関する特集は、2003年「口腔保健のこれから」（第52巻 第1号）にはじまり、2011年「地域における歯科保健推進条例と歯科口腔保健法—「8020」の実現に向けて—」（第60巻 第5号）、2014年「歯科口腔保健法に基づく地域歯科保健活動の推進と今後の課題」（第63巻 第2号）、2016年「多職種連携に基づく在宅高齢者の口腔機能の維持・向上への取り組み」（第65巻 第4号）に至る。口腔保健の特集を通してこの20年間を振り返ると、8020運動（80歳になっても20本以上自分の歯を保とう、という運動）が展開されるなか、「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定によってより一層自治体での地域歯科保健対策が進められ、歯科口腔保健活動が大きく発展してきたことが理解できる。

2003年の特集の巻頭言「口腔保健の新たな展望」で、当時科学院の口腔保健部長であった花田信弘先生は「これまでの口腔保健には国内はもちろんのこと世界的に見ても反省すべき点が多い」と冒頭に述べられている。その号の編集後記に、安藤雄一先生が「人口・疾患構造の変化により公衆衛生のあり方が変わろうとしている昨今ですが、わが国の口腔保健についていえば、「これからは公衆衛生の時代」であり、社会の側もようやくこのことに気がついてきたように思えます」と記されているのが印象的である。2011年、2014年、2016年の特集は国際協力研究部長でいらした三浦宏子先生により、診療室完結型歯科医療から地域完結型歯科医療への転換のニーズを踏まえ、多職種連携に基づく地域歯科保健や医科歯科連携を基盤とした高齢者歯科保健を支えるシステム構築における歯科の役割等について言及している。

本号の特集では、「医療・福祉・介護分野との連携に基づく歯科口腔保健活動」をテーマにさまざまな視点から事例紹介や概説をした。他分野・他職種との協働による歯科口腔保健活動が健康および地域づくりに与える影響を考え、地域住民のための歯科口腔保健対策に役立てていただければ幸いです。

（生涯健康研究部 田野ルミ）